

読んでスッキリ♪ いまさら聞けない？
話題のニュースを学べるマガジン

ご参考資料 ピクテ投信投資顧問

Bonjour

ボンジュール!!

2016年
6月10日号

Vol.308



イエレンさん、7月ですかね？

● 冷や水浴びせられたイエレンさん

6月3日、発表された5月の米国雇用統計は非農業部門雇用者数の伸びが市場予想を大きく下回るなど、低調な内容となりました。これを受け、米連邦準備制度理事会（FRB）のイエレン議長は6日の講演で雇用統計の悪化に「失望した」と述べ、今回の講演では利上げ時期についての言及がありませんでした。

● 利上げ時期を占うポイント

イエレン議長の会見を受け、今後の利上げ時期を占ううえで注目すべきポイントを3つ挙げています。

1、雇用市場の回復

景気回復には雇用が安定的に伸びることが重要です。特に注目されるのは、非農業部門の雇用者増加数です。

イエレン議長も非農業部門雇用者数がこれほど低下するとは想定していなかった模様で、今回の低調な結果が一時的なものかどうかについて慎重に精査すると思われます。

2、インフレ率

インフレ率目標2%に戻るかどうかです。イエレン議長は予想は難しいものの、石油価格

の下落とドル高がないならば1~2年で2%に戻るだろうと期待を述べています。

3、海外経済の懸念

特に中国の経済成長減速懸念と英国の欧州連合（EU）離脱問題には注目です。

6月23日の英国国民投票でEU離脱への賛成票が予想以上に集まればEU体制への不安も高まります。

● 米国の利上げ観測

個人消費や住宅着工など**雇用以外の主要な米国経済の指標は改善の傾向を示しており、今後、雇用市場の落ち込みが一時的と判断されれば追加利上げの可能性は高まるでしょう。**

労働市場では賃金が上昇傾向にあり、利上げ実施のタイミングはインフレ率上昇の兆しを確認できるかどうかにもよりますが、ピクテは**7月の追加利上げ実施を予想しています。**

いずれにしろ、イエレン議長は「追加利上げは緩やかに進めていく」と発言していることから、マーケットへの影響を考えた緩やかな利上げになるでしょう。

11月の米大統領選も控えており、この先も追加利上げの時期を予想するには難しい期間が続きそうですね。

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。